

《碑文谷地区ドッジボール大会》

快晴の3月9日（土）中央体育館で「碑文谷地区ドッジボール大会」が開催されました。これは目黒区の中で碑文谷警察署管内の小学校が集まって行われる大会です。以前は中央体育館で行われていましたが、東京オリンピックの為に中央体育館が改修になり一時期碑文谷体育館で行われていました。その後コロナの影響で中止の時もありましたが、昨年より新しくなった中央体育館で再び行われるようになりました。



今年度、5年生チームは7チーム、6年生チームは6チームが各地域から参加しました。

5年生チームの試合は午前中に行われ、それぞれのチームが4試合ずつ行いました。結果鷹番小学校5年生チーム「鷹番ドッジボール協会」は2勝2敗、勝ち数などのうえ3位という結果でした。

6年生チームの試合は午後に行われました。5年生と同じくそれぞれ4試合ずつを行った結果、鷹番小学校6年生チーム「シン・コタツ DE ミカン」は全勝の4勝でした。碑小学校も4勝だったために優勝決定戦になりました。決定戦では惜しくも負けてしまいましたが堂々の2位でした。



長い事碑文谷地区ドッジボール大会に付き添っていて感じたことは、年々どのチームもドッジボールが上手になっていることです。鷹番小学校では当日「松本先生」と「辻先生」が引率・監督もしていただきましたが、おそらくドッジボールの指導も学校内で行って頂いていたのだと思います。

他の地域のチームを見ている、日頃から学校や地域が関わっていて、大会当日だけに子どもを集めて参加するというチームは無いように見えました。鷹番小学校でも20年ほど前は当日子どもたちを連れて行くだけ、という時期もありましたが、いつのころからか学校も関わってくださるようになり、充実したドッジボール大会が開かれるようになりました。

ドッジボールは典型的なチーム競技で、一人だけ早いボールを投げられる子どもがいても勝てるものではありません。「自分が、自分が…」ではなく、ボールを回して当てられるときに当てるということが、5年生も6年生のチームもしっかり出来ていました。周りで見ていた他地域の方々からも「鷹番強いなあ…」という声をたくさんお聞きしました。

試合では負けてしまって涙ぐむ子どももいましたが、じきにカラッとしてまた仲間たちと笑って学校に戻ってきました。とても子どもらしい純粋な姿を見ることが出来て、引率して「また来年も大会が続きますように…引率が出来ますように…」と思いながら過ごした一日でした。



6年生にとっては小学校での最後の思い出になったと思います。今年の6年生がそうであったように、5年生はこれから最上級生になって、また1年後に成長した姿を見せてくれることでしょう。大会を組織・運営して下さったみなさま、競技の審判をして下さったスポーツ推進委員のみなさま、子どもたちの指導・引率をして下さった鷹番小学校の教職員のみなさまありがとうございました。